

みんなちがう けど おなじ

これまで、たくさんの障がいのある人と出会い、
いろいろな場面で多くのことを教わってきました。

最初は「あなた」と「わたし」のちがいに目が向いていたけれど、
いっしょに笑って、作って、楽しむうちに、ふと気づきました。

「あれ、なんだ、同じだ」と。

「このいちご、おいしいね」と笑い合うとき。

「ありがとう」と言われて、心があたたかくなるとき。

そんな小さな“おなじ”を見つけるたびに、
うれしくなって、誰かに伝えたくくなります。

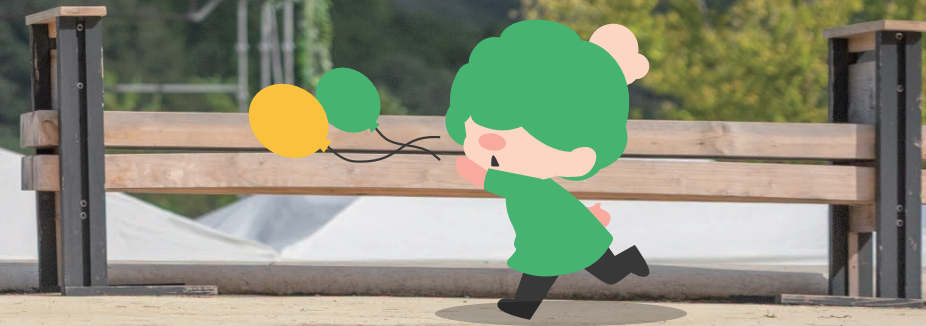
トントゥフェスは、そんな“おなじ”や“ちがい”を見つけるフェス。

お互いを認め合い、体験を分かち合い、

新しいなかまと出会える場所を目指しています。

CONTENTS

| | | | |
|----------------------|----|----------------------|----|
| はじめに | | フェスをかたちづくる | |
| フェスコンセプト | 01 | 8つの体験 | 37 |
| トントゥのはじまり | 03 | | |
| 今年の合言葉 | 05 | バックストーリー | |
| | | トントゥサポーターと体験の輪 ... | 39 |
| フェスの全体像 | | 開催報告 | 41 |
| インクルーシブ・インデックス | 07 | フェスの理念とつながりの輪 | |
| フェスの全体像 | 09 | フェスの理念 | 43 |
| コンテンツの紹介 | | さいごに | |
| ようこそ森 | 11 | さいごに | 45 |
| いちぶんのいちマルシェ | 13 | SPECIAL THANKS | 46 |
| フード(キッチンカー) | 17 | | |
| ステージ | 19 | | |
| ワークショップ | 25 | | |
| スポーツ・ゲーム | 29 | | |
| ロングテーブル | 32 | | |
| インスタレーション | 33 | | |

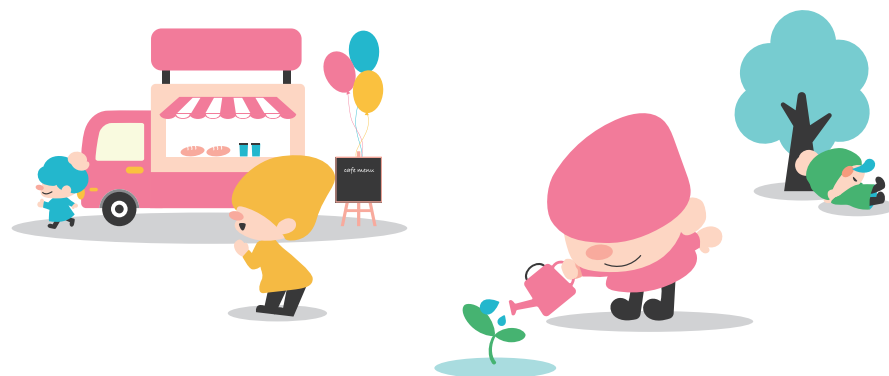


トントゥのはじまり

Who is Tonttu?



トントゥは、“とくいなこと”を
持ち寄る妖精。



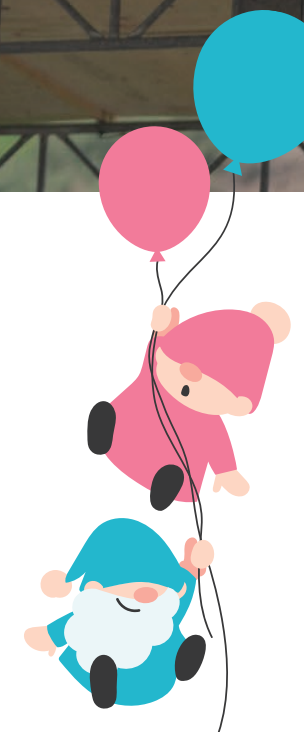
トントゥフェスの名前の由来になっている「トントゥ」は、
フィンランドの森にすむ小さな妖精。

花に水をあげたり、誰かの幸せをそっと願ったり。
人の暮らしのすぐそばで、“できること”を大切にしています。

そしてトントゥの帽子は、ひとつひとつちがうかたち。
得意なことも、できることも、みんなちがいます。
でも、ちがうからこそ、森はにぎやかで、あたたかい場所になります。

トントゥフェスは、そんなトントゥのように、
“ちがいを活かし合う社会”を目指して始めました。

つくる人も、まもる人も、まなぶ人も、あそぶ人も。
それぞれの“できること”を持ち寄って、
毎年たくさんの笑顔の輪が広がりますように。





今年の合言葉

This Year's Theme



ドキドキ、ワクワク さあ！探しに行こう

2025年のトントゥフェスのテーマは、
「ドキドキ、ワクワク さあ！探しに行こう」。

見て、聞いて、ふれて、味わって...
五感で感じる“しかけ”がたくさん。

音や香り、色や手ざわりを通して、
言葉だけでなく、まなざしや笑顔、しぐさが交わり、
人と人が自然にかかわり合う中で、
いろんなドキドキとワクワクが生まれていきます。

そんな体験の積み重ねが、
人と人、想いと想いをつないでいきます。

この本では、五感を通じた体験から生まれた、
トントゥフェスの“つながり”のかたちをお届けします。



トントゥフェスを かたちづくる、5つの“視点”

トントゥフェスは、誰もが自然に“かかわれる”フェスを目指しています。
つくる人、楽しむ人、支える人。
それぞれの「できること」が重なり合い、フェスが生まれます。
ここでは、そんなトントゥフェスをかたちづくる5つの“視点”をご紹介します。

Inclusive Index



アクセシビリティ

誰もが参加できる
環境を

会場のバリアフリー対応や、平易な言葉での案内、必要に応じたサポートが行われています。トントゥフェスでは、多様な方法で参加のハードルを下げる環境が整えられており、これから紹介する各エリアでも、どんな人がどのようにかかわっていたのか、その工夫が見えてきます。



エクスペリエンス

体験を通じて
つながる

国籍や年齢、障がいの有無をこえて交流できる機会と空間がつけられています。ゲームやワークショップ、展示、パフォーマンスなどの体験を通して人と人が出会う場面があり、そのかわりが各コンテンツの中でどのように生まれていたのかを、この先のページでとっていきます。



ラーニング

学びから広がる
関心

インクルージョンや障がい者雇用について、「知る・気づく・考える」きっかけが、フェスの中に散りばめられています。福祉とデザインの展示や体験を通したやりとりの中で学びに触れる場面があり、各エリアを読み進める中で、その学びがどこにあったのかが見えてきます。



チーミング

つながりが
力になる

フェスでの体験や出会いをきっかけに、人と人との関係が結ばれていきました。良い体験を共有した人たちが、それぞれの立場で次の行動につながる場面もたくさん見られました。次のページから、各エリアでどのようなかわりが生まれていたのかを読み進めていくことができます。



グローカル

地域から
世界へつなぐ

トントゥフェスは、開催地である埼玉県飯能市に根ざしながら、全国・世界とつながる場となっています。2025年も全国各地の福祉事業所や地元の出演者・関係者がかかわることで、地域と外の世界を結ぶ接点が育まれており、その様子は各コンテンツの中にも表れていました。



トントゥフェスは、
この5つの“視点”を
重ねながら、
すべての人が“かかわる”
フェスを目指しています。

このストーリーブックでは、フェスの中で生まれていたかかわりや場面を、エリアごとに追いながら紹介していきます。それぞれの場所で、どんな人が、どんなかたちでかかわっていたのか。次のページから、そのひとつひとつを見ていきます。

フェスの全体像

出会いと体験がつながる、 多彩なコンテンツ

森と湖に囲まれた北欧の空気を感じる「メッツァビレッジ」。
この自然豊かな場所で、トントゥフェスティバルは開催されました。トントゥたちが暮らす森のように、会場のあちこちに「発見」と「つながり」のタネが散りばめられ、五感を通して楽しめるさまざまな体験の“しかけ”がたくさん。見る、聞く、ふれる、味わう。そのひとつひとつの体験が、人と人、想いと想いをつなげる空間をご紹介します。

イベント概要

| | |
|-----|-------------------|
| 開催日 | 2025.10/4(土)～5(日) |
| 時間 | 10:00～16:30 |
| 会場 | メッツァビレッジ |



📷 フォトスポット

コンテンツ一覧

| | | | |
|----------------------------|-------------|---|-------------|
| A | ようこそ森 | スタンプラリーの受付やアクセシビリティ案内など総合案内所がこのエリアです。トントゥフェスの一日がここから動き出しました。 | p.11 |
| B1 & B3 | いちぶんのいちマルシェ | 全国の福祉事業所が手がけた手仕事の商品が並びました。作る背景に触れる“しかけ”もあり、つくり手の想いに触れることもできました。 | p.13 |
| C | フード(キッチンカー) | 地元飯能と福祉施設がかかわる食が集まりました。香りや調理の様子に足を止め、食をきっかけに会話や笑顔が広がっていました。 | p.17 |
| D | ステージ | 音楽やダンス、トークなど多様な表現が次々と届けられました。地域で活動する人や福祉事業所の仲間も加わり、盛り上がりを見せました。 | p.19 |
| E1 & E2 | ワークショップ | 素材に触れ、道具を使い、手を動かしながらものづくりが行われました。“手仕事”の工程や背景に触れる体験もできました。 | p.25 |
| F1 & F2 | スポーツ・ゲーム | 年齢や立場、特性の違いを問わず、かかわれる体験がたくさん。参加する人や見守る人が混ざり合い、自然なやりとりが生まれていました。 | p.29 |
| G | ロングテーブル | 食事や会話、休憩などを思い思いに過ごす姿が見られました。向かい合っても、並んで座ってもよく、それぞれの時間が重なっていました。 | p.32 |
| H1 & H3 | インスタレーション | 展示を見たり触れたり。五感を使った体験が行われました。社会や手仕事の背景に触れたり、想いを共有するブースもありました。 | p.33 |



metsä village®

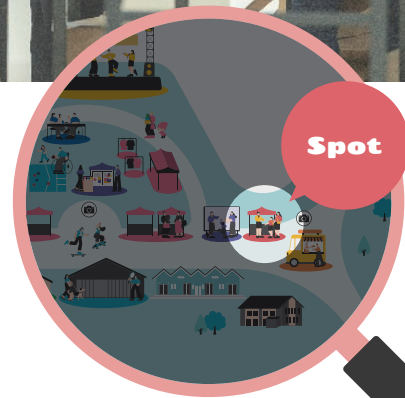
北欧の風を感じるメッツァビレッジで、トントゥと過ごす特別なひととき。

トントゥフェスは埼玉県飯能市にある metsä village で開催しました。北欧をモチーフにした自然豊かなロケーションで、人々が楽しみながらつながり、トントゥたちのような笑顔あふれるひとときを共有しました。



ここから
“探しに行く”が始まる。

マップとスタンプカードを手にすれば、ここから“ドキドキ”と“ワクワク”を探しに行く時間がはじまる！訪れた人を最初に迎えるのは、笑顔のスタッフやボランティア、そしてトントウたち。「おはようございます！」「こんにちは！」と交わされるあいさつの声が、徐々にフェスの空気をあたためていきます。ここは、来場者にとっての入口であると同時に、迎える人たちがそれぞれの役割に踏み出す出発点。来場者とスタッフで交わされるやりとりや笑顔のひとつひとつが、このフェスをかたちづくる最初の一歩になっていました。



マップを手に一歩を踏み出す。
この場所からそれぞれの
トントウフェスティバルが始まっていく。

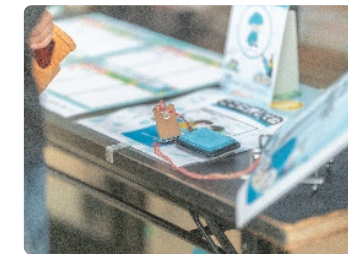


このエリアでできた“体験”



フェスの総合案内所

会場全体の案内や来場者の受付対応を担う、フェスの総合窓口。年齢や障がいの有無にかかわらず、誰にとっても分かりやすい案内が心がけられていました。誰もが安心して会場を楽しめる環境づくりが行われていました。



スタンプラリー

会場を歩きながらスタンプを集め、気になる場所や人と出会っていく参加型の企画。各エリアを巡る中で、それぞれの楽しみ方が広がっていました。すべてのスタンプを集めた人には、記念としてオリジナルステッカーのプレゼントを実施しました。



ボランティア・就労体験の拠点

「ようこそ森」は、来場者だけでなく、ボランティアや就労体験の人たちのスタート地点でもありました。参加特典のトートバッグとともにスタッフTシャツに袖を通し、役割を確認する中で、気持ちが切り替わっていく姿が印象的でした。

Inclusive Index かかわりの“カタチ”



はじめまして!の笑顔が 交わるフェスのはじまり。

フェスを訪れた人もそうでない人も、誰もが通る「ようこそ森」。“ドキドキ”と“ワクワク”の期待を胸に会場へと進めるよう、たくさんのボランティアさんとともに明るい笑顔と元気なあいさつでみなさんをお出迎えしました。パンフレットを開きながら「どこから行こうか？」と笑顔で出発されるお客様に、見どころやおすすめコンテンツをご紹介しますなど交流が生まれていました。

Supporter Voice



あたたかい現場で、 自分らしく働く。

スタッフの皆さんがとても優しく、一緒にお仕事できて嬉しかったです。受付の仕事も難しすぎることはなく、笑顔でお客様を迎え入れることができました。また機会があれば、参加したいなと思っています！
トントウサポーター あきさん

Job Training

フェスを支えた“就労体験”



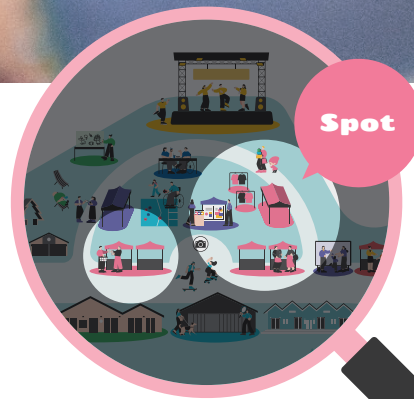
はじまりをつくる、 あいさつの仕事。

就労体験の参加者が学生ボランティアと並び来場者へパンフレットを手渡しました。「こんにちは！」と声をかけるたびに場がやわらぎ、返ってくる「ありがとう」に笑顔がこぼれます。まっすぐなあいさつが、フェスの最初の安心感を生み出していました。



**作る人と、
受け取る人が、つながる場所。**

福祉事業所でのものづくりや仕事の持ち味は「丁寧であり続けること」。福祉事業所のつくり手や働く人は、ひとつひとつのものづくりや仕事に対してこだわりを持ち、真剣に、そして真摯に向き合っています。そんな「いちぶんのいち」な姿勢で作られたお菓子や雑貨を、ボランティアや就労体験として参加された障がいのあるみなさんとともに販売しました。商品の販売を通し、人と人をつなぎ、福祉と社会をつないでいく。「おいしそう!」「素敵!」からはじまる、インクルーシブなマルシェとなりました。



Spot



手に取って眺めたり、並べて比べたり。
思い思いに足を止め、商品をじっくり選ぶ人の姿。
ゆったりとした時間が静かに流れていく。



このエリアでできた“体験”



B1 おいしいの森

焼き菓子、パン、ジャムなどの加工品が集まりました。子ども連れの家族や友人同士、ふらりと立ち寄った来場者が足を止め、会話を交わしながら商品をじっくり選ぶ姿が見られました。贈り物やお土産にもぴったりの品が揃いました。



B2 おたからの森

木工や布小物、ガラス、陶器などの小物や雑貨、日用品、リラクゼーショングッズなど、手仕事から生まれた品々が数多く並びました。ひとつひとつ表情の異なる個性的な商品が並び、会場のあちこちから「かわいい」という声が聞こえてきました。



B3 あーとな森

訪れた人々は、作品を手に取りながら新たな発見や出会いを楽しみ、時には思いがけない一品との出会いに心を弾ませていました。ブース全体が、作品だけでなく「人」と「想い」が行き交う、活気と温もりに満ちた空間になっていました。

Inclusive Index かかわりの“カタチ”



ていねいな手仕事のやりとりで、 人と人の出会いが生まれる。

お客様とつくり手が出会う、つくり手同士が出会う、そして障がいのある方の手仕事に触れる。商品を手に取ることで人と人がつながり合い、さまざまな新しい出会いが生まれていました。「おいしそう」「この面白くておしゃれな雑貨気になる!」そんな興味から生まれる一歩。その一歩が、ものづくりの背景にある想いや、つくり手の存在に自然と目を向けるきっかけとなっていました。

Supporter Voice



会ったばかりの仲間たちと。

フェス全体が不思議な一体感・空気感に包まれて、お客様も期待感でいっぱいの様子が印象的でした。マルシェでは、その場限りのスタッフなのに、みんなで相談して、それぞれに合った役割がすぐに決まり素晴らしかったです。私はレジを担当しましたが、お客様はフード、物品と、迷うことも楽しんでいました。

トントウサポーター まっつんさん

Job Training

フェスを支えた“就労体験”



想いを手渡す、 マルシェの仕事。

施設でつくられたいちぶんのいちの「手仕事」の品を袋に詰め、お客様へ手渡しました。ひとつひとつに込められた想いを届ける役割です。受け取った方の「ありがとう」に、自然と笑顔があふれます。作る人から使う人へ、つながりが生まれる時間になっていました。

1/1 (いちぶんのいち) の物語を届けるために

北は北海道、南は沖縄まで。全国の福祉事業所から届いた約7,500点の品々が並ぶマルシェ。特産品やアート雑貨、季節のスイーツを手に取りながら、来場者はつくり手やボランティアとのやり取りを楽しみ、思いがけない出会いやつながりが生まれていきました。その「気になる」の先を届けるために生まれたのが「いちぶんのいちマルシェ年鑑」。ひとつひとつの商品の背景や、つくり手の姿勢に光を当て、出会いが応援へと続いていく流れを、ページをめくりながら感じられる一冊になりました。



出店事業所

スタッフの方がフェスのために駆けつけて、自慢の商品でマルシェを盛り上げてくれました。

- 1 **フィロスあけぼの焼き菓子工房ミツバチ**
群馬県安中市
こだわりのマドレーヌなどの焼き菓子を販売しました。
- 2 **ヴェルベんくんのパン屋さん**
埼玉県飯能市
食と健康に寄り添うこだわりの生食パンが注目を集めました。
- 3 **菓子工房あおーら**
埼玉県飯能市
楽しんで働くことをモットーに丁寧に作られた焼き菓子は大好評で、2日間で完売となりました。
- 4 **キャンパス**
埼玉県所沢市
折り染め封筒や手作りキャンドル燭台など、個性溢れる品々を販売しました。
- 5 **領家グリーンゲイブルズ**
埼玉県上尾市
豆の音を聞き分けて焙煎する、こだわりのコーヒーを販売しました。
- 6 **晴れ晴れ**
埼玉県川口市
特製金型で焼き上げたベーゴマクッキーなどの焼き菓子を販売しました。
- 7 **ワークプレイスアミカ**
東京都北区
ちぎり絵をモチーフにしたキーホルダーやペンダントのほか、ちぎり絵作品も販売しました。
- 8 **ぶーやんあしながらぶ**
東京都昭島市
縫製製品が所狭しと並ぶブースは、約50名が集結し大きな存在感を放ちました。

- 9 **友愛学園成人部 工房YUAI**
東京都青梅市
自然の中で生まれた作品が五感を魅了しました。
- 10 **TETENTOTEN**
東京都世田谷区
目利きの店主が全国から集めた、障害のある方が作ったユニークな商品が並びました。
- 11 **IKIカンパニー イキキ竹工房+中区チーム**
神奈川県横浜市
竹あかりと竹楽器が会場を優しく彩りました。
- 12 **暮らしランプ**
京都府乙訓郡
一点物の手仕事やこだわりのコーヒー商品など、世界観あふれる品々が並びました。

全国の共同受注窓口

※ 全国の共同受注窓口からも、さまざまな商品が集まりました。



- 13 【北海道共同受注窓口】 元気ショップいこへる
- 14 【宮城県共同受注窓口】 特定非営利活動法人みやぎセルフ協働受注センター
- 15 【栃木県共同受注窓口】 とちぎセルフセンター
- 16 【群馬県共同受注窓口】 一般社団法人共同受注窓口「みんなの店」
- 17 【群馬県共同受注窓口】 群馬県社会就労センター協議会
- 18 【埼玉県共同受注窓口】 埼玉県就労B型受注拡大ステーション
- 19 【千葉県共同受注窓口】 特定非営利活動法人千葉県障害者就労事業振興センター
- 20 【静岡県共同受注窓口】 オールしずおかベストコミュニティ
- 21 【滋賀県共同受注窓口】 特定非営利活動法人滋賀県社会就労事業振興センター
- 22 【広島県共同受注】 公益社団法人広島県就労振興センター
- 23 【高知県共同受注窓口】 高知県社会就労振興センター
- 24 【愛媛県共同受注】 共同受注ポータルサイトエイカぶうしすてむ
- 25 【福岡県共同受注窓口】 特定非営利活動法人セルフセンター福岡
- 26 【熊本県共同受注窓口】 はーとアROUNDくまもと

出品事業所

フェスの趣旨に賛同し、素敵な商品を出品してくれた事業所を紹介します。

- 27 **共働事業所きばりや**
北海道札幌市
- 28 **すてっぶ**
北海道札幌市
- 29 **ブルークロス**
北海道札幌市
- 30 **セルフ豊里**
北海道旭川市
- 31 **わかふじ寮**
北海道上川郡
- 32 **kuracra**
青森県上北郡
- 33 **アトリエ・ソキウス**
宮城県仙台市
- 34 **工房けやき**
宮城県仙台市
- 35 **はびかむ**
宮城県仙台市
- 36 **多夢多夢舎中山工房**
宮城県仙台市
- 37 **ばれったけやき宮城野**
宮城県富谷市
- 38 **AMEHARE**
宮城県富谷市
- 39 **就労支援あん**
栃木県宇都宮市
- 40 **TERAS**
栃木県宇都宮市
- 41 **TOMOS company**
栃木県宇都宮市
- 42 **CCV**
栃木県鹿沼市
- 43 **hikari no cafe**
蜂蜜小珈琲店
栃木県大田原市
- 44 **GOOD JOB**
群馬県館林市
- 45 **麦わら屋**
群馬県前橋市
- 46 **びっころ**
群馬県利根郡
- 47 **ワークショップくんえい**
群馬県北群馬郡
- 48 **あかりワークス姫宮**
埼玉県南埼玉郡
- 49 **上尾の魔女カフェ**
埼玉県上尾市
- 50 **自立工房山叶本舗**
埼玉県秩父市
- 51 **おおり**
埼玉県入間市
- 52 **すてあーず**
埼玉県さいたま市
- 53 **おおぞら園**
千葉県千葉市
- 54 **ときわぎ工舎**
千葉県長生郡
- 55 **シャロームなみ風**
東京都新宿区
- 56 **プエルト**
東京都新宿区
- 57 **アトリエ福花**
東京都渋谷区
- 58 **おかし屋ばれっと・工房ばれっと**
東京都渋谷区
- 59 **渋谷まる福**
東京都渋谷区
- 60 **TEN TONE**
東京都渋谷区
- 61 **irodori**
東京都世田谷区
- 62 **隅田作業所**
東京都墨田区
- 63 **すみだ花工房**
東京都墨田区
- 64 **ココロネ板橋**
東京都板橋区
- 65 **玉川福祉作業所**
東京都世田谷区
- 66 **ぐりんぴーす工房**
東京都多摩市
- 67 **クラフト工房 La Mano**
東京都町田市
- 68 **SOU FACTORY**
東京都国立市
- 69 **たまぶらねっと"わ"**
東京都国立市
- 70 **ムジナの庭**
東京都小金井市
- 71 **イル・ヴェント**
東京都八王子市
- 72 **木馬工房**
東京都八王子市
- 73 **フラグステデザイン**
東京都府中市
- 74 **あおぞらソラシード・kumamoriオーガニクス**
新潟県阿賀野市
- 75 **アートかれん・メープルかれん**
神奈川県横浜市
- 76 **凸凹農園**
長野県大町市
- 77 **WHITE CANVAS**
長野県安曇野市
- 78 **ラポール・ファーム**
静岡県静岡市
- 79 **むもんカンパニー**
愛知県豊田市
- 80 **工房しゅしゅ**
滋賀県東近江市
- 81 **れもん会社**
滋賀県大津市
- 82 **naiforall**
大阪府大阪市
- 83 **Salut**
京都府京都市
- 84 **青葉仁会**
奈良県生駒市
- 85 **清和会**
三重県四日市市
- 86 **ワークくわの木 江津事業所 森のレストラン**
島根県江津市
- 87 **ワークくわの木 金城第2事業所**
島根県浜田市
- 88 **3番のりば**
広島県安芸高田市
- 89 **れもんワークス**
徳島県名西郡
- 90 **樹**
愛媛県松山市
- 91 **浜っ子作業所**
愛媛県八幡浜市
- 92 **ゆいの里**
愛媛県宇和島市
- 93 **就労支援「らいふ」**
高知県須崎市
- 94 **玄海第一青生園**
福岡県糸島市
- 95 **Hamaru**
福岡県久留米市
- 96 **サニースイドワークセンター**
熊本県菊池市
- 97 **まんざく園**
熊本県八代市
- 98 **工房びゅあ**
沖縄県沖縄市
- 99 **ゆいふぁーむ沖縄**
沖縄県沖縄市
- 100 **ワーカースホーム**
沖縄県宜野湾市
- 101 **TEAM VILLAGE**
沖縄県中頭郡

全国の共同受注窓口とは？

発注元と福祉事業所の間で調整を行う役割があり、福祉事業所が規模にかかわらず、幅広い注文に対応できるよう、手助けしています。



フード(キッチンカー)



香りに誘われて、
とっておきのおいしい体験。

いい香りに誘われて足を止めると、そこには地元・飯能のキッチンカーや福祉事業所等が手がけるオリジナルメニューが並んでいます。しかしこのエリアの魅力は、料理のおいしさだけではなく、おすすめを聞いたり、気になった一品について尋ねるうちに、どんな人たちがかわっているのか、そして作り手の想いに触れることができます。そうしたやり取りを通して、「地域や福祉にかかわる人たちを知る」きっかけが生まれていました。ここは、「食べることを通して作り手の「想い」に触れられる、とっておきの体験ができるエリアとなりました。



Spot



おいそうな香りに誘われて
足を止める人の姿。食をきっかけに、
会話と笑顔が広がっていく。



出店事業所

素敵なフードを出店してくれた店舗と事業所を紹介します。



アイラブ福祉研究所
サンドイッチ、マスカット、マスカットジュース



CRUNK TRUNK CAFE
モンブラン



どりかも食堂
スパイスカレー



バグバグキッチン
クレープ



ラス・フィンカス
ドーナツ、バーガー

Inclusive Index かかわりの“カタチ”



おいしく食べただけなのに
自然と誰かとつながる。

今年初めて展開したキッチンカーエリアは、メイン会場から少し離れていたため、最初は「普通のお店かな?」と思った方もいたかもしれません。ボリューム満点のバーガーやカラフルなサンドイッチが五感を刺激し、「おいしい!」をきっかけに福祉事業所や障がいのある方の手仕事、飯能のものづくりへと自然につながっていく。「知らず知らずのうちにインクルーシブな体験ができていた」、そんな社会と福祉をゆるやかにつなげていくエリアとなりました。

Supporter Voice



“トントゥフェスならではの”を
おいしく楽しむ!

車椅子ユーザーさんのアテンドでみんなでカレーを食べました♪そのあとドーナツ好きの私は「ラス・フィンカス」へ。海外出身の聴覚障がいの方が手がけているとは知らずに購入しましたが、自然とインクルーシブな交流が生まれるのがトントゥフェスらしい!

トントゥサポーター M.Kさん

Interaction

食で生まれた“つながり”



食がつなぐ対話。

キッチンカーの前では、「おいしいね」と感想を交わす姿が自然と広がり、あたたかなやりとりが生まれていました。スタッフ同士でおすすめを伝え合うなど、口コミが広がるなかで、食をきっかけに会話の輪がさらに広がっていく様子も見られました。



境界を越えて、
ひとつになる瞬間。

来場者の視線の先に広がるのは、音楽やダンス、トークなど、さまざまな表現が響き合うステージ。地域で活動するパフォーマーや福祉事業所の仲間たちも加わり、それぞれの想いを込めて、この場をつくり上げていました。思わず手拍子をしたくなる場面や、自然と体が動いてしまう演目の数々に、観客とステージのあいだの距離も少しずつ近づいていきます。会場全体がドキドキとワクワクに包まれ、子どもから大人まで楽しめる、ひらかれた空間が広がっていました。

Spot



ステージに向けて拍手が起こる。
演じる人と観る人のあいだで、音と動きが
行き交い、同じ時間が刻まれていく。



このエリアでできた“体験”



音と動きで楽しむ

演奏に合わせて手拍子をしたり、身体を揺らしたり、音に反応する楽しさが自然に広がりました。参加の仕方に正解はなく、それぞれが自分の心地よい形で楽しめる空間に。観るだけではない、“参加できるステージ”が生まれていました。



多彩な表現に出会う

プロのアーティスト、地域の団体、福祉施設のメンバーなど、多様な出演者が登場しました。それぞれの表現の背景にある思いや取り組みを知ること、音楽やダンスが“その人らしさ”を映し出す場になっていました。



みんなに届ける工夫

ステージ横には手話通訳が立ち、スクリーンにはリアルタイムで字幕が流れました。音だけに頼らず、表現の意味や思いが伝わる環境を整えることで、誰もが安心して楽しめる場に。多様な来場者が同じ時間を共有できる工夫が活かされていました。

Inclusive Index かかわりの“カタチ”



大人も子どもも、 障がいのある人もない人も 誰もが歌って踊る！

手話通訳やリアルタイム字幕を通して、音声だけに限らず、それぞれに合った方法で表現を受け取れるステージとなりました。手拍子をしたり、身体を揺らしたりと、観る人もそれぞれの形で参加できる演目が多く、演じる人と観る人が一緒に場をつくる時間が生まれていました。

Supporter Voice



みんなで作る、 ステージの時間。

手拍子をしたり身体を揺らしたりと、観る人もそれぞれの形で参加できる演目が多く、会場全体で時間を共有しているように感じました。誰もが自分の方法で楽しめるステージだったと思います。

トントウサポーター E.Sさん

Beyond Stage

ステージの“その先へ”



出会いが、次の共創へ。

ステージ後には「また見たい」「参加してみたい」との声が寄せられ、出演者同士の新たなコラボも生まれました。手話の工夫も好評を得て、インクルーシブな取り組みへの関心が広がりました。多彩な表現との出会いは、来場者の心に深く残る時間となりました。

舞台を彩った、 ステージの仲間たち

得意なことも、表現のかたちも、人それぞれ。
それぞれの個性が発揮されたトントウフェスならではのステージ
となりました。ここからは、2025年のステージに出演した仲間た
ちをご紹介します。



10月4日(土)の出演者



太鼓パフォーマンス

和太鼓や笛、民謡踊りのにぎやかで力強いパ
フォーマンスで、今年もフェスティバルの幕開け
を元気いっぱい飾ってくれました。「親子で
一緒に太鼓叩けるってサイコー！」

Profile

【おどる太鼓クラブ】障がいのある仲間たちが、
母親や指導者とともに和太鼓や民謡踊りに取り
組むグループ。地元・飯能を拠点に活動中。



ジャズコンサート

駿河台大学モダンJAZZ研究会のステージで
は、編成の違う2バンドが登場し、軽快でエネル
ギッシュな演奏を届けてくれました。若さあふ
れるリズムに、会場から自然と手拍子が起こり
ました。

Profile

【駿河台大学 モダンJAZZ研究会】大学入学後
にジャズを始めた学生で構成される団体。現在
約25人で活動している。

バレエダンス& ワークショップ

クラシックバレエの上演とワークショップを実施。
ワークショップでは、言葉の代わりに気持ちを
伝えるバレエの「マイム(身振り)」を紹介し、参
加者が身体表現の楽しさを体験しました。

Profile

【益田裕子】新国立劇場バレエ団所属。舞台出
演やコンクール受賞歴を持つクラシックバレエ
ダンサー。



【朗読】トントウストーリー

トントウフェスティバルのテーマを伝えるストー
リー朗読。ひとりの少年の成長を描いた物語が
語られ、障がいの有無にかかわらず楽しめる内
容となりました。

Profile

作:【青草猫】エンタメ・演劇分野で活動するク
リエーター。制作や表現活動に携わっている。
朗読:【星咲英玲奈】モデル、プロデューサー



ピアノ弾き語り

ピアノ弾き語りによるステージ。オリジナル曲や
カバー曲を披露しました。2年ぶりの出演とな
った今回も、澄んだ歌声が会場いっぱいに広が
りました。益田裕子さんとのコラボレーションも
行われました。

Profile

【佐藤ひらり】全国のイベントや講演で活動する
シンガーソングライター。東京2020パラリンピ
ック開会式などで国歌斉唱を務めた。



アカペラコンサート

駿河台大学サークルによるアカペラコンサート。
フェスのテーマに沿った楽曲を中心に、新しい
曲や聴き馴染みのある曲を披露。幅広い年代
の来場者が楽しめるステージとなりました。

Profile

【駿河台大学 a.c.p】駿河台大学を拠点に活動
するアカペラサークル。学内外で演奏活動を行
っている。

10月5日(日)の出演者



スティールパン演奏

明るく軽快な楽曲や親しみのある曲を中心に、障がいのあるメンバーとともにステージに立ち、息を合わせて迫力のある演奏を届けました。透明で繊細な音色が会場いっぱいに広がるステージとなりました。

Profile

【スティールパン バンド Pele & Colors】2003年結成のPeleと、埼玉県障害者交流センターでのイベントをきっかけに結成されたColorsによる合同バンド。

【トークショー】 アートで叶えるディーセント・ワーク

キットバスやチョークアートなどの実践をもとに、表現活動と仕事のつながりについて語りました。アートを通じた取り組みや、働く場を広げる工夫が共有されました。

Profile

【大山真里】日本理化学工業(株)でキットバス講師養成に携わる。
【河野真弓】チョークアート作家。看板制作やメディア出演などで活動。
【中尾文香】博士(社会福祉学)。ディーセントワーク・ラボ代表理事。



トントウのうたをうたおう！ おどろう！

北久保みゆき氏による作詞・作曲・振り付けで制作されたフェスのオリジナルソングを初披露。手話通訳士・橋本一郎氏と、ろう詩人 Sasa-Marie 氏による手話監修のもと、歌とダンス、手話を組み合わせた参加型のステージとなりました。

Performers

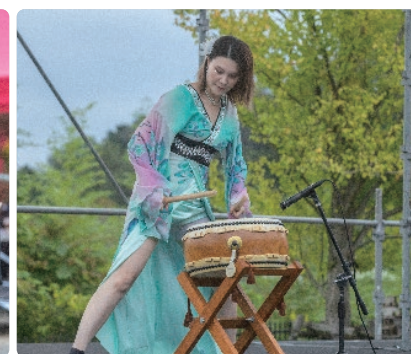
DREAM WONDERLAND

和太鼓 & YOSAKOI

視覚障がいのある和太鼓師範・富田安紀子と YOSAKOI チーム「力鼓舞」による共演ステージ。来場者も楽器や身体を使って加わる、観客参加型の演目となりました。

Profile

【和太鼓 AKIKO × YOSAKOI 力鼓舞】和太鼓師範・富田安紀子と YOSAKOI チーム「力鼓舞」によるユニット。国内外の舞台で活動している。



ダンス & トーク

義足のダンサーとしての経験をもとに、踊ること、そして表現することの意味を語りました。ダンスとともに、自身のこれまでの歩みや思いを伝えるステージとなりました。

Profile

【大前光市】交通事故で足を失った身体表現者。日本舞踊英御流名取で、パラリンピック開会式など国内外の舞台に出演。

エンターテイメントチアダンス

2年連続の出演となる今回は、『紙くずの大冒険』を上演。チアダンスとエンターテインメントを融合させた迫力あるステージで、観客を物語の世界へと引き込みました。

Profile

【DREAM WONDERLAND】世界大会優勝実績をもつ競技チアダンスチーム。代表・北久保みゆきが振付・演出を手がける。



10月4日(土)・5日(日)



手話通訳者のみなさん

ステージでのパフォーマンスをより多くの方に楽しんでいただけるよう、2日間すべての演目で、情報保障の一環として手話通訳が行われました。



MC

星咲英玲奈氏による進行。明るく元気な語り口でステージにリズムを生み、出演者や来場者とのやりとりを交えながら会場を盛り上げました。



字幕サポートスタッフ

スタッフが全公演をサポートし、音声の自動文字起こしをリアルタイムで表示。誰もが内容を受け取れるよう、舞台裏からアクセシブルなステージづくりを支えました。



“手仕事”の 世界を“体験”してつながる。

子どもから大人まで楽しめる、ものづくりの体験エリア。福祉事業所や地域のグループによるコラボレーションのもと、時間帯ごとに多彩なプログラムが用意され、フェスならではの創作に取り組む姿が見られました。体験を通して、障がいのある人たちの“手仕事”や“想い”に触れられるのも、このエリアの魅力のひとつ。参加者は素材に触れ、道具を使いながら試行錯誤を重ね、自分だけの作品づくりに挑戦していました。完成後は互いの作品を見せ合い、感想を交わす姿も見られ、会場にはものづくりの楽しさが広がっていました。



「ものづくり」に取り組む真剣な眼差しは、日々施設で「手仕事」と向き合う人たちの姿と重なっていく。



このエリアでできた“体験”



E1 手仕事ワークショップ

手を動かす楽しさを味わいながら、香るうちわ作りや北欧の装飾ピンメリなど、幅広い手仕事に挑戦できるコーナー。障がいのある方が日々ていねいに行う“手仕事”に触れることで、作るプロセスの奥深さや素材の質感や特徴に気づける体験となりました。



E2 アクリルお絵描き

湖を背景に、アクリル板に自由に描けるお絵描き体験。光を受けて透ける色や重なりのおもしろさに気づいたり、家族と一緒に作品を仕上げたりと、それぞれの表現が自然と生まれていきました。描いた作品を写真を撮る姿も多く見られました。

Inclusive Index かかわりの“カタチ”



自分の手で作る喜びを みんなと共有する。

五感を通じて、福祉事業所のものづくりや地域の自然素材に触れる。背景にあるストーリーを知ること、いつもは隠れている「誰かのお仕事」を想像したり、「こんなふうになっているのかも」という新しい視点に出会えたり。ワークショップという「遊び」を通して、自然と学びが深まるエリアとなりました。

Supporter Voice



楽しみながらひらく、 インクルーシブな学び。

インクルージョンや障がいについて関心のあるゼミの仲間と参加し、トントウフェスティバルに向けて一から考えたワークショップやゲームを実施しました。幅広い世代の方々に、楽しみながら学んでもらえたことがとても嬉しかったです。
トントウサポーター T.S さん

Job Training

フェスを支えた“就労体験”



次の体験へつなぐ一声。

ワークショップの入口で、スタンプラリーの案内や補助を担当。体験の内容は別々でも、ここは“次に進むきっかけ”をつくる場所。どこへ行こうか迷う来場者に声をかけ、スタンプを押します。案内の一言が、新しい体験の入口になり、フェスの時間を有意義にする手助けとなっていました。

手仕事ワークショップ

“手仕事”にふれる。

福祉事業所で日々行われている手仕事をもとにした、体験型ワークショップ。刷る、描く、組むといった作業に取り組みながら、ものづくりの工程を体験することができました。

Spot



10月4日(土)



北欧伝統のヒンメリづくり

北欧の伝統装飾「ヒンメリ」を作るワークショップ。8面体のシンプルな形をベースに、色や素材の選び方によって仕上がりの印象が変わります。参加者は手順に沿って組み立てを進め、少しずつ形を完成させていきました。

Sponsor

飯能市フィンランド協会
素材協力:社会福祉法人ル・ブリ 横浜光センター

10月5日(日)



シルクスクリーンTシャツづくり

トントゥフェス2025のために描き下ろされたイラストを、シルクスクリーンでTシャツに刷るワークショップ。刷り上がりは一枚ずつ異なり、その後は布用ペンや絵の具で自由に仕上げます。世界にひとつだけのTシャツが完成しました。

Sponsor

社会福祉法人 杉並希望の家

10月4日(土)・5日(日)



香るうちわ作り

香り付きのアクリル絵の具を使い、うちわに自由にペイントするワークショップ。見ることだけに頼らず、香りも手がかりにしながら楽しめるように生まれた絵の具です。色を重ねるたびにやわらかく香りが広がり、子どもから大人まで、それぞれの感覚で描き進めていきました。思い思いに仕上げたうちわが完成しました。

Sponsor

一般社団法人 暮らしランプ

アクリルお絵描き



Spot

透明なキャンバスに、
描いて、消して、また描く。

ガラスやアクリルなどの平滑面にも描けるクレヨン「キットパス」は、日本理化学工業でつくられており、社員の約7割が知的障がいのある人たちです。このエリアでは、描く・消すを繰り返すうちに景色と重なり、まるで湖の自然の中にお絵描きしたみたいな感覚に。お気に入りのキャラクターやトントゥを描き、写真を撮る姿も見られました。

キットパスを使った手形アート



手形で残す“今日”のかたち

同じエリアでは、キットパスを手に塗り、手形を残す体験も行われていました。クレヨンのやわらかな感触に触れながら、手を広げて、べたり。その日、その瞬間の“手のかたち”が、今日の記憶として残っていきました。絵の得意・不得意に関係なく、大人から小さな子どもでも参加しやすいブースとなっていました。





あそびの中で、
自然に“ちがい”に出会う。

ボッチャで
人の輪をつなげる。

年齢や性別、立場や特性のちがいを越え、誰もが同じ場にいられる空間。はじめは遠くから様子を見ていた人も、多様な遊びをきっかけに、声を出したり身体を動かしたりしながら、少しずつ場へ加わっていきます。かかわり方はさまざまで、見守る人も、ふとしたきっかけで輪に入る人も、どちらもその場に参加する“カタチ”のひとつです。そうしたかかわりの中で、お互いの違いや共通点に気づき、言葉や動きのやり取りから、新しいつながりが生まれていきました。ここでは、そんな小さな発見を体験できました。



初めてボッチャを体験する学生、白杖の方、体幹機能障がいのある方、ダウン症の方、高齢の方、子どもたちなど…。2日間で約180名が参加。演出してくれたのは、日本にボッチャを普及させた日本ユニバーサルボッチャ連盟の渡辺美佐子先生。枠にとらわれず、訪れた人それぞれに合わせて、いちばん楽しめる方法を提案してくれます。すべての人が一緒に楽しめる体験が生まれました。



Inclusive Index かかわりの“カタチ”



ゲームを通じて初対面でも
距離が縮まっていく。

メッファホールを丸ごと“あそびの会場”にして、誰でも自由に入出入りしながら楽しめるプログラムをたくさん用意しました。

年齢や障がいの有無の違いがあっても、ゲームを介して協力しあうと一気に距離が縮まり、その場で初めて出会う人たちがひとつになって楽しんでいる姿を見かけるたびに心が温かくなりました。

Supporter Voice



かかわる楽しさに気づく。

今までに体験したことのない仕事に取り組むことができ、楽しく参加することができました。また、今回の経験を通して、他の仕事にも挑戦してみたいという気持ちも生まれました。他のスタッフさんやお客様とずっと話してみたいという思いも強くなり、次に参加したら、もっと積極的にコミュニケーションを取れるようになりたいと思っています。

トントゥサポーター Sさん

Job Training

フェスを支えた“就労体験”



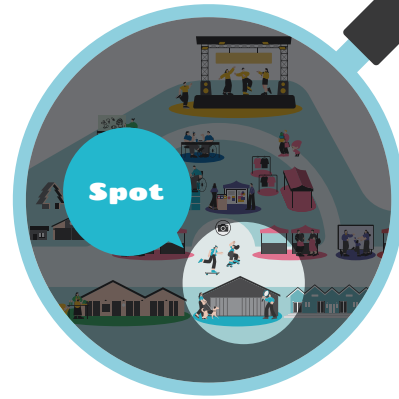
一緒に楽しむことも
“役割”になる。

ユニバーサルボッチャの就労体験では、準備や進行を支えるだけでなく、「その場と一緒に楽しむ」ことも大切な役割でした。成功とともに喜びながらかかわるなかで自然と距離が縮まり、場の雰囲気もやわらいでいきました。それぞれの個性や反応が力となる時間となりました。

インクルーシブラボ

“ちがう視点”で遊ぶ。

ゲームや体験を通して、見え方や感じ方のちがいにふれるインクルーシブラボ。遊びながら気づき、自然と対話が生まれる時間が広がっていました。



10月4日(土)

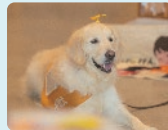


盲導犬・介助犬・聴導犬を知ろう！

盲導犬・介助犬・聴導犬の仕事を、デモンストレーションや体験を通して学ぶプログラム。人を支える補助犬たちの動きや役割にふれながら、日常にある支え合いのかたちを身近に感じる時間が広がっていました。

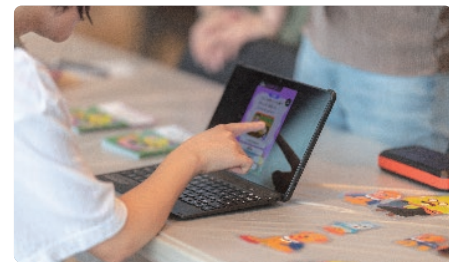
Project

特定非営利活動法人
日本補助犬情報
センター



点字・手話体験 / 補助犬うんこドリル

点字器と点筆を使って点字を打ったり、手話話者の方に手話を教わったり、オンラインコンテンツ「うんこドリルほじょ犬」で補助犬について学んだり、さまざまなコミュニケーションの方法をご紹介します。



10月5日(日)



アートなスケボーに乗ろう

福祉の現場から生まれたストリートブランドのスケートボードに実際に乗って体験するコーナー。スケートボードに施された大胆なグラフィックと、身体感覚が重なり、アートと遊びが交差するストリートの新しい入口がひらかれていました。

Project

GOLLIE DUCKER



トントゥ探しゲーム

押ししたり、引いたり、破いたり。さまざまなミッションをクリアしながら、段ボールの森に隠れているトントゥを探す謎解きゲーム。障がいの有無にかかわらずお互いに声をかけ合いながら進む中で、自然とチームワークが生まれました。

Project

クリエイティブップス



G

ロングテーブル

湖のそばで
笑顔が集うロングテーブル。

食事をしたり、会話を楽しんだり、休憩したり、ステージを眺めたり、作業をしたり。ここは思い思いに過ごせるロングテーブル。ひとりで腰を下ろしても、誰かと並んで過ごしても、話しても話さなくてもいい。同じ景色を眺めながらのんびり過ごす時間も、ここならではの楽しみです。向かい合うことも、並んで座ることも、どんなふうにも座っても自由で、隣の人と会話を交わしたり、ただ座って過ごすことも気兼ねなく楽しめます。そんな時間を共有することで生まれる、ゆるやかなつながりがこのエリアにはありました。



Inclusive Index かかわりの“カタチ”

自然のなかで重ねる
対話や学び。

食事やステージを自由に楽しんでもらいたいという思いから設置した「ロングテーブル」。来場者、出店者、ボランティアなど、さまざまな人が同じテーブルを囲みます。湖を眺めながら食事や会話を楽しみ、トントゥフェスでの体験や気づきを、隣り合った人とも自然に語り合う。ゆっくり対話を重ねながら、学びが広がっていく場所です。



手仕事と想いに 出会うインスタレーション。

会場を歩き、展示に目を向け、時には触れたり匂いを楽しみながら、来場者は“気になるもの”を体験します。どこで足を止め、何を感じ、どの展示に心を奪われるかは、人それぞれ。手仕事の背景や、それを支えてきた人々の存在に思いを馳せる瞬間もあれば、来場者自身が想いを書き込み、メッセージを共有する姿もあります。インスタレーションエリアは、誰かの仕事を見る場所であると同時に、自分の想いが場に加わる場所。作品や展示に触れ、体験することで、お互いの存在やかかわりを自然に感じられる空間になっていました。



Inclusive Index かかわりの“カタチ”



“ちがいを”と“おなじ”を体感し それぞれの体験を伝えていく。

見て、触れて、耳を澄ませて。五感のすべてを使って体験するインスタレーションエリアは、子どもも大人も、障がいがあってもなくても、楽しみながら新たな価値観に出会えた好評でした。ディーセントワーク・ラボの展示コーナーでは、わたしたちの活動についてご紹介。インクルーシブな社会の実現に向けて、ともにすすんでいく、そんなきっかけが生まれる場所になりました。

Supporter Voice



五感をひらく手仕事展。

300カ所以上の福祉現場を訪ね、障がいのある人の手仕事や職人技を見つめてきた羽塚順子氏の著書『ウェルフェアトリップ』から生まれた体験型鑑賞展。眺めるだけでなく、触れたり香りを感じたり。五感を通して手仕事の奥にある時間や気配に出会う展示です。作る人の息づかいや日々の積み重ねが、そっと伝わってくる展示となりました。



このエリアでできた“体験”



細かな手仕事の 部屋

透かし和紙に目を凝らし、布のお浄巾に触れるエリア。繊細な手仕事を、じっくり味わうことのできる空間でした。



迫力！ 伝統工芸の部屋

伝統工芸で作られたヤマタのおろちに触れ、素材の力強さを感じるエリア。受け継がれてきた技術と迫力がありました。



素材と戯れる 部屋

胸いっぱいイグサとヒノキの香りが広がる体験エリア。自然素材の感触に、五感がひらいていく場所でした。



アートをまとう 部屋

一着ごとに異なるペイントが施された服を身にまとえるエリア。ユニークなアートを体いっぱい、まとう体験はなかなかできません！

Special Thanks

エリア企画：ウェルフェアトリップ～五感のとびらをひらく旅 (MotherNess Publishing) 展示・販売協力：いわみ福祉会 / ititi&河内正嗣 / 戸田商行 / 群言堂ちくちくお浄巾プロジェクト / 萌友 foryou / 清和会 (キソウキカク) / 玉川福祉作業所 / ムジナの庭 / フエルト / すずらん / maica ~米花 / あるま縁屋 / 一越会 / FLAGS design / Creative Sherpa / 多夢多夢舎中山工房

触れて、香って、出会う展示。

和紙や布の手ざわり、イグサやヒノキの香り、迫力ある造形や身にまとうアートまで、五感を使って楽しめる展示でした。

作品の奥にあるつくり手の息づかいや工夫に、自然と気持ちが向く時間になったと感じます。

トントウサポーター H.R さん



社会と仕事に出会う展示。

福祉や仕事、地域とのつながりをテーマにした展示エリア。背景にある人や仕事などのプロセスにふれながら、社会との関係を感じる場となりました。

10月4日(土)・5日(日)



ディーセントワーク・ラボ展

フェスを主催する特定非営利活動法人ディーセントワーク・ラボの展示。福祉施設の運営や障がい者雇用の推進、よりよい働き方を探る研究や啓発活動を通して、「働くこと」と「役割」について考える取り組みを紹介しました。

Project

ディーセントワーク・ラボ



equalto (イクォルト)

「equalto (イクォルト)」が目指すのは、ものづくりを通して障がいのある人の働きがいと経済的な自立を支えること。この展示では、equaltoの商品とともに、その背景にある仕事のあり方にも触れることができました。

Project

equalto



オーナメントづくり体験

ロウを使って、自分の感覚をかたちにするオーナメントづくり。学生たちがそばで寄り添いながら進めることで、笑顔が絶えないワークショップとなりました。ロウは、特例子会社・株式会社リンクラインが提供しています。

Project

プロジェクトZ
長野大学
片山優美子ゼミチーム



違う目で「みる」塗り絵・ゲーム体験

色の見え方や感じ方の違いに注目しながら取り組む、塗り絵とゲームの体験。遊びを通して普段は意識しない感覚に出会い、戸惑いや発見を共有しながら、ちがいを知るきっかけが生まれました。

Project

プロジェクトZ
慶應義塾大学 商学部
牛島利明研究会チーム



みんなの竹とうろう

竹害となっている飯能の竹を活用し、夏休みのワークショップで制作した竹とうろうを会場に展示。地域の資源を使い、福祉やものづくりにかかわる人たちが一緒につくった過程が、形となって並ぶ展示でした。

Project

ディーセントワーク・ラボ
ほか



想いが集まる、参加型インスタレーション。

フェスの中で見つけた、あなた自身の“想い”を言葉や絵で伝える参加型インスタレーション。風に飛ばされてしまったトントたちの帽子を、みんなの想いで作り直すという、物語に沿って、フェスに参加してくれた全ての方の“想い”を書いて、貼って、共有することで、帽子が少しずつできていく。来場者やスタッフ同士の気持ちとつながることができる体験となりました。

あなたの想いみつけた



体験の数だけ、想いが増える。

今年は各エリアの体験ごとに色分けされた6色のシールに、参加者が感想や想いを記載。貼られたシールや書き添えられた言葉から、その場で感じたことや、心に残った気持ちが自然と伝わってきます。体験の数だけ、フェスの記憶が重なっていくような光景が生まれていました。



フェスをかたちづくる、8つの体験。



出会いから広がる体験のはじまり。
そのすべてが重なり“8つの体験”として、
フェスをかたちづくっていました。

フェスを彩った仲間たち

Backstory

トントゥフェスティバルを支えてくださったのは、
さまざまなトントゥサポーターと
会場に訪れた来場者のつながりです。

一人ひとりが果たした役割とそこに込めた想いが
フェスを形にしました。

舞台裏で活躍した人たちの姿をご紹介します。



いろいろな役割を担ったトントゥサポーターたち



プロジェクトZ

プロジェクトZは、慶應義塾大学商学部、長野大学、美術系大学の
学生有志団体です。学生ならではの視点と発想で、今年も誰もが楽
しめるコンテンツを提供してくれました。



協賛企業の皆さん

たくさんの企業様に協賛金や物資を提供していただいたことで、
来場者やトントゥサポーターの笑顔があふれる時間をつくることが
できました。

地域とともに育む体験の輪



竹とうろうをつくろう!ワークショップ

飯能と姉妹都市の横浜市中区の福祉事業所のみなさんを講師に
迎え、竹害となっている飯能の竹を使って、飯能の福祉事業所のメ
ンバーや一般のお客様と一緒に、会場を飾る竹とうろうを作りました。



運営ボランティア

受付・誘導、各コンテンツでの説明・サポートまで、来場者の体験
はすべてボランティアの皆さまによって支えられていました。ボラ
ンティアの皆さんの笑顔がフェス全体の笑顔を生み出しました。



協力企業、団体の皆さん

フェス当日に裏方で運営を支えてくれた方々、事前準備や広報活
動、会場には来れなかったけれど、遠くからエールを送ってくれた方々
まで、見えないところで多くの方が支えてくださいました。



子ども応援キャンペーン

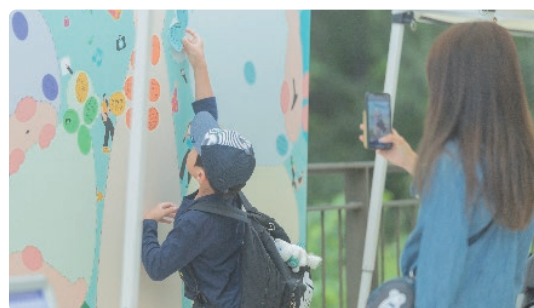
「機会（チャンス）が同じ（公平）であること」が何よりも重要であ
るとの思いから、高校生以下を対象に、メッツァビレッジ内の「ム
ミンバレーパーク」をお得な価格で体験できるキャンペーンを企画。
好評につきフェス期間中も延長して実施されました。

ウェブ・SNS 報告



ウェブサイトでの情報発信

公式ホームページの総PV数:39,000件
 今年度は公式ホームページが立ち上がる前に、予告仮設サイトも公開。
 年間を通し、多くの方にトントゥフェスティバルを知っていただく接点が増え、
 PV数は昨年度の2倍以上になりました。



SNSでの反響

Instagramでの投稿件数:本投稿37件、ストーリーズ125件
 フェスの準備期間から出演者や出店事業所のご紹介、制作の裏側などを発信。当日はストーリーズを中心に、リアルタイムでフェスの様子をお届けし、フォロワー数も前年度+49.2%増加と好調に推移しました。



プレスリリースの波及

転載メディア数:合計149件
 フェス開催の告知はもちろん、ワークショップやクラウドファンディングのお知らせなど、フェス関連のプレスリリースを合計5回配信。東洋経済オンラインからおくたま経済新聞まで、さまざまなウェブメディアに転載され、認知度向上につながりました。

動画配信の成果

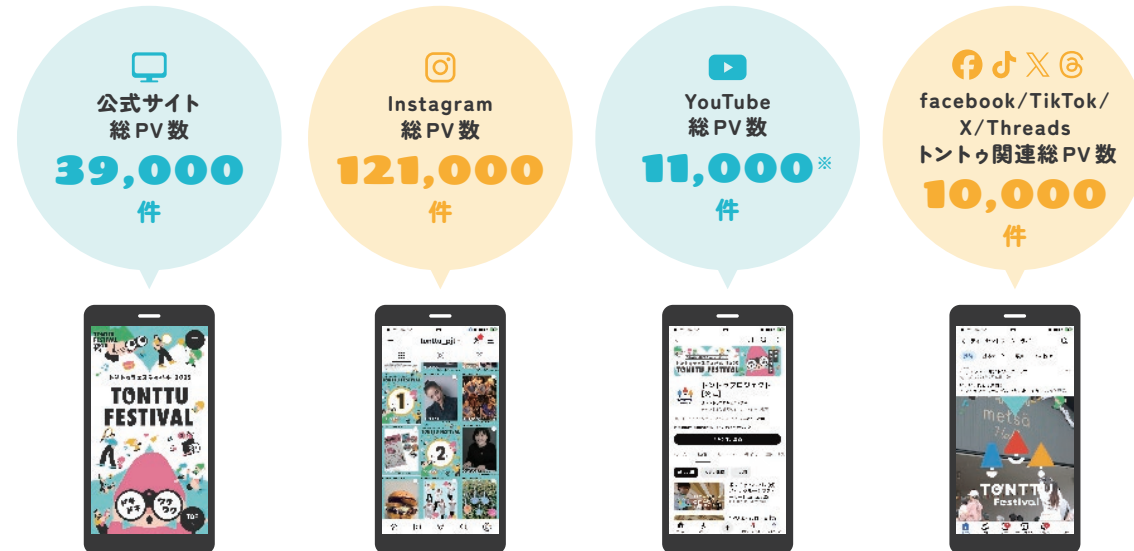
関連動画の視聴数:合計3,000 ※フェス関連動画
 昨年度のダイジェスト・今年度の告知とフェスを知っていただく動画に加え、今年度は飯能市で活動する福祉事業所やバラスポーツ選手などの活動を伝える動画を「飯能インクルーシブストーリー」としてYouTubeで3本公開しました。



クラウドファンディングの実施

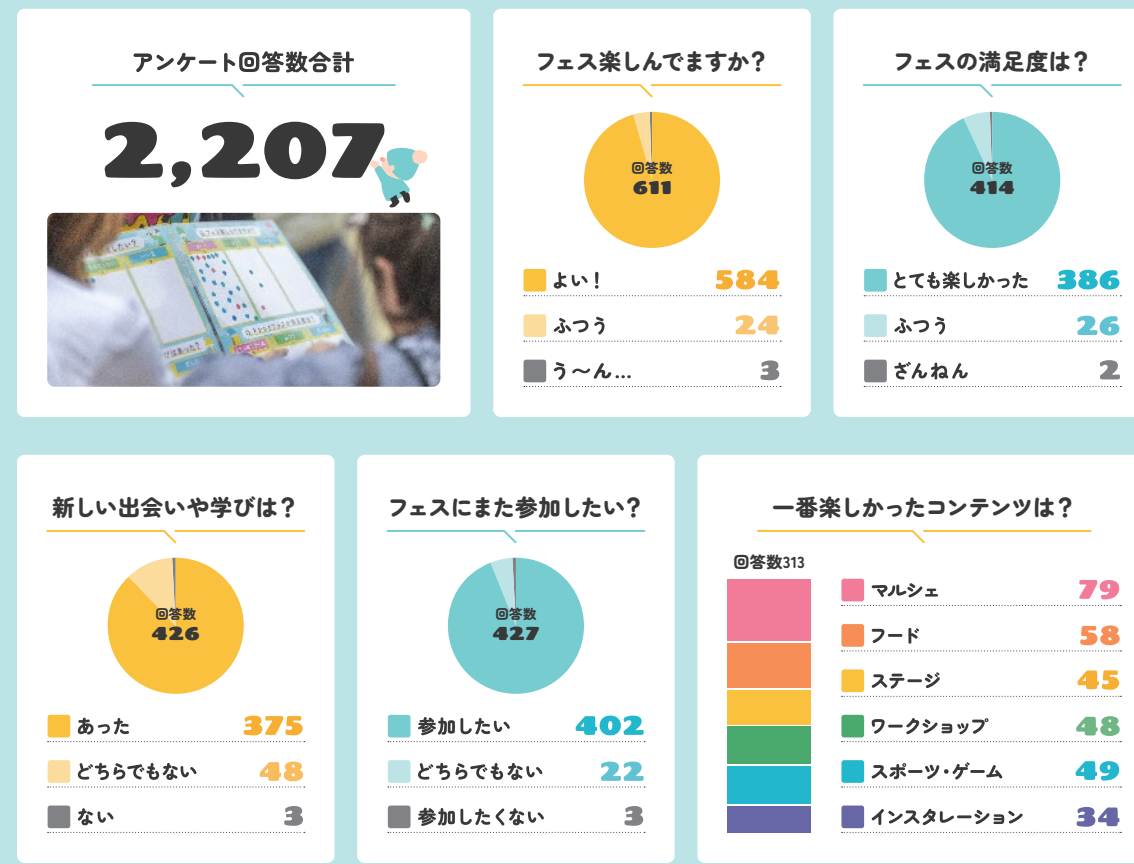
支援額:105,000円
 遠方や自宅からでもフェスの一部を楽しんでいただけるよう、主に全国の福祉事業所の商品をリターンとしたクラウドファンディングを今年度も実施。フェス直前の公開にもかかわらず、10万円以上の支援が集まりました。

SNS・YouTube ハイライト



※トントゥフェスティバル関連投稿

来場者・アンケート結果



フェスの理念とつながりの輪



違いを知って、同じを楽しみ、
つながりを創る。
それが私たちが目指すフェス。

トントウフェスティバルは、「障がいのある人と社会がもっと自然につながる世の中をつくりたい」という想いから、NPO法人ディーセントワーク・ラボが2021年に立ち上げた、インクルーシブフェスティバルです。障がいのある人たちとのかかわりが深い現場と、社会とにある隔たりをつなぐ架け橋として、お互いのことを知り合うための「サプライズ」を散りばめたイベント「トントウフェスティバル」をスタートしました。

「トントウフェスティバル」では、障がいの有無にかかわらず社会でつながりあい、ともに楽しむことを大切に、「ちがいが」と「おなじ」を知るきっかけを提供します。そこで生まれる共感の「うず」が、これからの社会をより良くする原動力になると信じて活動しています。



主催団体

NPO 法人ディーセントワーク・ラボ



トントウフェスのSDGs

- 1 貧困をなくそう**
 福祉事業所で作られた商品を購入したり、福祉事業所の素材を使ったものづくりワークショップに参加したりすることで、障がいのある人がより多くの工賃・賃金を受け取るにつながります
- 4 質の高い教育をみんなに**
 障がいのある人それぞれの特性を活かしたものづくりによって生まれた商品を、会場内のショップやワークショップなどで販売・使用することで、障がいのある人が職業訓練をする機会や、新たな仕事を生み出す機会につながります
- 5 ジェンダー平等を實現しよう**
 障がいのある女性は「保護される人」「家にいる人」とみなされてきました。働き方の発信や商品を通じて理解を深め、母親のケア負担にも着目し、社会全体で支え合える環境づくりを目指します
- 8 働きがいも経済成長も**
 障がいのある人それぞれの特性を活かし、付加価値の高いものづくりによって生まれた商品の販売や使用を通じて、障がいのある人の工賃・賃金向上を図り、働きがいを感じる仕事を生み出すことにつながります

すべての人のディーセント・ワーク ディーセント・ロールの実現

当法人は、すべての人が「ディーセント・ワーク」を実現できる社会を目指して活動しています。特に、障がいのある方がコミュニティの中で「役割」や「仕事」を持ち、周囲とともに認識できる環境づくりを推進。多くのプロと連携し、全ての人の「働く」を支える取り組みを行っています。

働きがいのある人間らしい仕事

SDGsの8番目の目標「働きがいも経済成長も」に登場する「ディーセント・ワーク」は「働きがいのある人間らしい仕事」を指します。賃金だけでなく「ありがとう」と言われる喜びや役立実感、豊かな生活や社会保障が調和した働き方が重要と考えています。





2025.10.4

さいごに

笑い声と会話に包まれ、トントゥフェスティバル2025は幕を閉じました。
みなさまの笑顔が、この場を特別な時間にしてくれました。
2032年に向け、役割と働きがいがある社会を目指し続けます。
また来年、この場所でお会いしましょう。心からの感謝を込めて...

Special Thanks! (敬称略)

さまざまな人・企業が手を取り合い、このフェスは支えられています。

運営ボランティア・プロジェクト・運営サポート

鮎澤千秋/ありた/石塚佐知子/泉谷龍磨/伊藤世奈/いまいま/いむ/うえまえ/大館泰子/緒方慶三郎/おもち/加藤拓哉/神部 愛乃/木山貴之/こー/さとうまこと/Saya/柴原世奈/柴原礼子/Jimin/Shiro/しんちゃん/じゅんこ/順子/鈴木菜穂/Takashi Ozaki/ちまり/HAKU/はま/原木愛梨/ひさえだまりこ/Makoto Inui/Mami/

まる/ミキティ/みのさん/MIRAI/村上晴香/もも/やかび/Yangyu/ゆー/ゆず/ゆづき/リサ/李善花/渡部結/就労体験に参加された皆さん

マルシェ出店

あおーら(埼玉)/IKIKIカンパニー+横浜市中区グループ(神奈川県)/ヴェルベックのバン屋さん(埼玉)/キャンパス(埼玉)/暮らしランプ(京都)/TETENTOTEN(東京)/晴れ晴れ(埼玉)/フィロスあけぼの(群馬)/ぶーやんあしながくらぶ(東京)/友愛学園成人部 工房YUAI(東京)/領家グリーンゲイブルズ(埼玉)/ワークプレイス アミカ(東京)

マルシェ出品

【北海道】わかふじ寮/すてっぷ/ブルークロス/セルフ豊里/共働事業所さばりや/青森 kuracra【宮城】アトリエ・ソキウス/工房やき/AMEHARE/多摩多夢舎中山工房/はぴかむ/ばれったけやき宮城野【栃木】就労支援あんた/hikari no cafe 蜂蜜小珈琲店/CCV/TOMOScampany【群馬】麦わら屋/びっころ/ワークショップくんえい/GOOD JOB【千葉】おぞら園/ときわぎ工舎【埼玉】あかりワークス姫宮/おおり/すてあーず/上尾の魔女カフェ/自立工房山本舗【東京】アトリエ福花/イル・ヴェント/おかし屋ばれっと・工房ばれっと/クラフト工房 La Mano/くりんびーす工房/ココロネ板橋/シャロームみなみ風/渋谷まる福/隣田作業所/すみだ花工房/SOU FACTORY/TEN TONE/irodori/玉川福祉作業所/たまぶらねっと"わ"/フエルト/フラッグデザイン/ムジナの庭/木馬工房【神奈川】アートかれん・メープルかれん/清和会【新潟】あおぞらサウンド・kumamori オーガニクス【長野】凸凹農園/WHITE CANVAS【愛知】むもんカンパニー【静岡】ラポール・ファーム【滋賀】工房しゅしゅ/れもん会社【奈良】青葉仁会【京都】Salut【大阪】

ネイルフォーオール【鳥根】ワークくわの木金城第二事業所/江津事業所 森のレストラン【広島】3番のりば/広島県就労振興センター【徳島】れもんワークス【高知】就労支援センター「らいふ」【愛媛】樹/浜っこ作業所/ゆいの里【福岡】玄海第一育生園/Hamaru【熊本】サニーサイドワークセンター/まんさく園【沖縄】工房びゅあ/TEAM VILLAGE/ゆいふあーむ沖縄 Green Sky/ワーカーズホーム【マルシェ協力】元気ショップいこ〜る/北海道社会福祉協議会/NPO法人みやぎセルフ協働受注センター/とちぎセルフセンター/一般社団法人共同受注窓口「みんなの店」/一般社団法人群馬社会就労センター協議会/埼玉県就労B型受注拡大ステーション/NPO法人千葉県障害者就労事業振興センター/一般社団法人静岡県社会就労センター協議会/NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター/公益社団法人広島県就労振興センター/NPO法人ぶうすてむ/高知県社会就労センター協議会/NPO法人セルフセンター福岡/はーとアラウンドくまもと

キッチンカー出店

アイラブ福祉研究所/CRUNK TRUNK CAFÉ/どりかむ食堂/バグバグキッチン/ラス・フィンクス

ステージ出演

おどろ太鼓クラブ/益田裕子/佐藤ひらり/駿河台大学 モダンJAZZ研究会/駿河台大学 a.c.p./スティールバンド Pele & Colors/大山真里/河野真弓/大前光市/DREAM WONDERLAND/和太鼓 AKIKO & YOSAKOI 歌舞/星咲 英玲奈【ステージ手話通訳】清田千智/村上諒/脇水彩【手話監修協力】Sasa-Marie【手話通訳コーディネーター】橋本 一郎

撮影

01DESIGN/あすなる Factory./NPO 法人ニモカ

ワークショップ・ゲーム・スポーツ・展示運営協力

NPO 法人日本補助犬情報センター/日本理化学工業株式会社/equalto/慶應義塾大学 牛島ゼミ・ユニタメ/長野大学 片山ゼミ/社会福祉法人 杉並希望の家/株式会社リンクライン/一般社団法人日本ユニバーサルポッチャ連盟/社会福

祉法人ル・プリ横浜光センター/MotherNess Publishing(いわみ福祉会/itiiti&河内正嗣/戸田商行/群言堂ちくちくお浄巾プロジェクト/萌友 foryou/清和会(キソウキカク)/玉川福祉作業所/ムジナの庭/フエルト/すずらん/maica

〜米花/あるま縁屋/一越会/FLAGS design/Creative Sherpa/多摩多夢舎中山工房/GOLLIE DUCKER/クリエイティブス/暮らしランプ

協賛



協力

株式会社メツァ/フィンテックグローバル株式会社/西武鉄道株式会社/一般社団法人奥むさし飯能観光協会/NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ/学校法人駿河台大学/IKIKIカンパニー/友愛学園成人部 工房YUAI/NPO 法人あおーら/小谷野莉紗・小谷野久美子/NPO 法人ホープワルドワイド・ジャパン アトリエ福花/株式会社 Hatch PLANNING/株式会社 Jewels/株式会社 MTC/FoodFes株式会社/株式会社アプレシヤル/株式会社アサンクリエート

後援

飯能市/飯能市フィンランド協会/埼玉県/厚生労働省

主催

NPO 法人ディーセントワーク・ラボ
【お問い合わせ】トントゥフェスティバル2025事務局
〒145-0062 東京都大田区北千束3-28-9 VAN フラツ 4F
/tonttu@decentwork-lab.org

この事業は、競輪の補助を受けて実施しています。
公益財団法人 JKA 競輪補助事業
<https://www.jka-cycle.jp/>



2025.10.5

